

栃木県わがまち未来創造事業計画書(市町総括表)  
**【単独・連携事業】**

市町名	下野市
-----	-----

(単位:円)

No.	単位事業名		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計
1	下野市小中学校音楽祭	総事業費		1,398,362	1,450,000	1,450,000	1,450,000	5,748,362
		うち市町支出額		1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	4,400,000
		うち県交付金		550,000	550,000	550,000	0	1,650,000
2	しもつけ市民芸術文化祭	総事業費	1,129,212	1,177,496	1,150,000	1,150,000	1,150,000	5,756,708
		うち市町支出額	884,167	895,493	900,000	800,000	700,000	4,179,660
		うち県交付金	442,083	447,746	450,000	0	0	1,339,829
3	下野市産業祭開催事業	総事業費	2,875,612	2,558,780	3,201,000	3,201,000	3,201,000	15,037,392
		うち市町支出額	2,575,475	2,458,772	3,200,000	3,200,000	3,200,000	14,634,247
		うち県交付金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	0	3,000,000
4	いしばし納涼踊り花火大会開催事業	総事業費	4,463,595	4,166,699	4,920,000	4,920,000	4,920,000	23,390,294
		うち市町支出額	1,467,000	1,372,000	1,640,000	1,640,000	1,640,000	7,759,000
		うち県交付金	733,500	686,000	820,000	0	0	2,239,500
5	石橋商工会賑わい祭開催事業	総事業費	1,537,069	1,500,898	1,550,000	1,288,000	1,288,000	7,163,967
		うち市町支出額	228,000	470,000	516,000	229,000	229,000	1,672,000
		うち県交付金	114,000	235,000	258,000	0	0	607,000
6	しもつけお笑いグランプリ開催事業	総事業費	543,614	600,168	900,000	900,000	900,000	3,843,782
		うち市町支出額	181,000	200,000	300,000	300,000	300,000	1,281,000
		うち県交付金	90,500	100,000	150,000	0	0	340,500
7	下野市商工会青年部夏まつり開催事業	総事業費	641,576	414,469	600,000	900,000	900,000	3,456,045
		うち市町支出額	213,000	138,000	200,000	250,000	250,000	1,051,000
		うち県交付金	106,500	69,000	100,000	0	0	275,500
8	下野市天平マラソン大会	総事業費		4,761,983	4,855,000	4,780,000	4,780,000	19,176,983
		うち市町支出額		813,483	880,000	880,000	880,000	3,453,483
		うち県交付金		406,741	440,000	440,000	0	1,286,741
9	第8回しもつけかんぴょうまつり	総事業費		437,927	418,000	418,000	418,000	1,691,927
		うち市町支出額		418,300	418,000	418,000	418,000	1,672,300
		うち県交付金		172,000	150,000	150,000	0	472,000
10	絶滅危惧種トウサワトラノオ保護事業	総事業費	300,000	600,000	390,000	200,000	200,000	1,690,000
		うち市町支出額	300,000	600,000	390,000	200,000	200,000	1,690,000
		うち県交付金	105,000	256,000	150,000	0	0	511,000
11	国分寺地区盆踊り&花火大会	総事業費			2,741,000	2,750,000	2,750,000	8,241,000
		うち市町支出額			810,000	820,000	820,000	2,450,000
		うち県交付金			405,000	410,000	410,000	1,225,000
市町計	総事業費	11,490,678	17,616,782	22,175,000	21,957,000	21,957,000	95,196,460	
	うち市町支出額	5,848,642	8,466,048	10,354,000	9,837,000	9,737,000	44,242,690	
	うち県交付金	2,591,583	3,922,487	4,473,000	1,550,000	410,000	12,947,070	

栃木県わがまち未来創造事業計画書(単位事業調査)  
【単独事業】

市町名	下野市
事業名	下野市小中学校音楽祭
事業主体の名称	下野市小中学校音楽祭実行委員会
代表者の名称	実行委員長 大塩 宗里
事業主体の所在	〒329-0492 下野市笹原26番地(下野市生涯学習文化課内)
事業主体の概要	・団体の目的:青少年の健全育成 ・設立年月日:平成30年6月下旬予定 ・構成員等:下野市青少年育成市民会議理事及び市PTA、その他
当該事業に係る地域の現状と課題	下野市は平成18年に南河内町、石橋町、国分寺町の3町が合併してきた市であり、市民が一体となって青少年の健全育成に取り組むため、「ファミリエ下野市民運動」を推進している。小中学校音楽祭実行委員会の構成組織となる、市青少年育成市民会議と各学校PTAにおいては、日頃から市と連携し子どもたちの健全育成に取り組んでいる。 本事業は平成22年度から始まり、年々参加者と観覧者が増加し、近年では1,000人を超えている。市内小中学校児童生徒が一堂に会し、音楽を通じて交流することで、関係者はもちろんのこと、多くの市民のさらなる地域への愛着心を育てているものと考えているが、市民の社会参加意識やまちづくりに対する意欲をどのように高めていくかが課題である。このため、平成29年度から実行委員会の運営を市民に委ね、参加意識を高めていくよう努めているところである。
事業目的	・音楽を通して市内児童・生徒の心身の健全育成に寄与するとともに、親睦を図る。 ・家庭、地域、学校が連携して事業を行い、下野市民としての一体感を醸成する。
事業概要	【平成30年度】 開催日:平成30年9月15日(土) 実施内容:①市内各小中学校の児童・生徒による合唱・合奏の発表 ・音楽を通して、学校間の児童・生徒の交流を図り、市の一体感を醸成を図る。 ・他校や上級生の演奏を見ることで刺激を受け、児童・生徒の音楽に対する学ぶ意欲の向上を図る。 ②市内県立高校の生徒の合唱・合奏の演奏 ③参加者全員による下野市歌の合唱 ☆昨年度に引き続き、実行委員会を組織化し、運営を委員会へ任せることで、市民参加によるまちづくりの意欲の向上を図る。 ☆チラシを幅広く配布し、一層の周知を図る。 ☆ケーブルテレビにて取材、放送をしてもらいPRするとともに、本格的な音楽ステージ仕様とし、来年度の参加へとつなげる。 【平成31年度】 開催日:平成31年9月 実施内容:①市内各小中学校の児童・生徒による合唱・合奏の発表 ②市内県立高校の生徒の合唱・合奏の演奏 ※課題や改善点を見出し、児童・生徒の地域への愛着心、市民のまちづくりに対する意欲の向上につながるイベントとしていく。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	基本目標④安心な暮らしを守り幸せを実感できるまちをつくる 【数値目標】 幸せだと感じている市民の割合:H26 75% → H31 78% 【市民意識調査(次回H31実施予定)】 住みやすいと感じる市民の割合:H26 84% → H31 87% 【市民意識調査(次回H31実施予定)】 【KPI】 小中学校の教育の取組の満足度:H26 4 → H31 5 【市民意識調査(次回H31実施予定)】 講座・講演会の年間受講者数:H26 8,242人 → H31 8,600人 【H29実績 9,691人】 公民館の利用者数:H26 14万7千人 → H31 15万4,200人 【H29実績 11万1,197人】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	30年度	31年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①市内各小中学校の児童・生徒による合唱・合奏の発表 ②市内県立高校の生徒の合唱・合奏の演奏	①市内各小中学校の児童・生徒による合唱・合奏の発表 ②市内県立高校の生徒の合唱・合奏の演奏	①市内各小中学校の児童・生徒による合唱・合奏の発表 ②市内県立高校の生徒の合唱・合奏の演奏		①市内各小中学校の児童・生徒による合唱・合奏の発表 ②市内県立高校の生徒の合唱・合奏の演奏
事業費	1,398,362	1,450,000	1,450,000	4,298,362	1,450,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,100,000	1,100,000	1,100,000	3,300,000	1,100,000
うち県交付金	550,000	550,000	550,000	1,650,000	
市町支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	298,362	350,000	350,000	998,362	350,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	生涯学習文化課(生涯学習推進グループ)
担当者名	大門 啓美
電話	0285-32-8919
連絡先 FAX	0285-32-8610
E-mail	syougaiyakusyuuunka@city.shimotsuke.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画書(単位事業調査)  
【単独事業】

市町名	下野市
事業名	しもつけ市民芸術文化祭
事業主体の名称	しもつけ市民芸術文化祭実行委員会
代表者の名称	会長 中川 賢一
事業主体の所在	〒329-0492 下野市笹原26(下野市生涯学習文化課内)
事業主体の概要	<p>団体の目的:しもつけ市民芸術文化祭の開催事業の具体的な推進を図る。</p> <p>・設立年月日:平成18年7月4日</p> <p>・構成員等:下野市文化協会役員及び一般公募委員</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>下野市は、平成18年に南河内町、石橋町、国分寺町の3町が合併してできた市であるが、その際、「思いやりと交流で創る新生文化都市」をメインテーマに、日頃から市民を対象とした様々な公民館講座を開催し、また、小中学校でも芸術文化活動に力を入れてきた。合併当初より「しもつけ市民芸術文化祭」を開催し、以来、毎年10月に開催され、公民館講座や小中学生の学習の成果発表の場として、文化芸術に親しむ市民の意欲向上に寄与してきた。</p> <p>しかし、近年、文化協会会員の高齢化や会員数の減少に伴い、文化祭参加者も減少傾向にある。市民の趣味嗜好の多様化や旧3町の会場持ち回り開催などにより会場が遠方になってしまう方々がいるのも起因しているものと考えられる。文化祭は3町の融和のシンボリックな行事でもあることから、いかにして参加者を増やし、芸術文化の振興という目的のもと、市民の一体感を醸成していくかが課題となっている。</p>
事業目的	<p>・芸術文化活動に参加する市民を増やす。</p> <p>・市民の創作意欲の高揚を喚起する。</p> <p>・文化芸術の側面から市民の交流を図り、ふるさと意識の高揚と一体感を醸成を図る。</p> <p>・地域文化の振興による定住促進のシンボリックな事業とする。</p> <p>・多様化する文化芸術団体の成果発表の受け皿となる。</p>
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>○しもつけ市民芸術文化祭の開催(平成30年10月13日(土)～28日(日))</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>①芸能の祭典Ⅰ・Ⅱ…市民が日頃活動している各教室の成果披露(吟詠、ダンス、邦楽、洋楽、郷土芸能、民謡、舞踊、)</p> <p>②歌の祭典…市民が日頃活動している各教室等の成果披露(歌謡)</p> <p>③音楽の祭典…市民が日頃活動している各グループ等の成果披露(ロック、フォーク等)</p> <p>④グリム♪ミュージックフェア…市民が日頃活動している各教室等の成果披露(コーラス、吹奏楽、管弦楽等)</p> <p>⑤書道展…市民が日頃から制作している作品の展示(書道作品)</p> <p>⑥茶華道展…市民が日頃活動している教室等の成果披露(お茶のお点前、活け花の展示)</p> <p>⑦市民の作品展…市民が日頃から制作している作品の展示(絵画、版画、手工芸品等の作品)</p> <p>☆文化祭の参加者を増やすためには、まずは会場に足を運び、活動を多くの方に見てもらう必要がある。そのため、来場者の増加を目指し、南河内体育センター、グリムの館、国分寺公民館を周遊してもらうため、スタンブラリー企画を開催し、景品を用意する。当該3館で集客力を高めるため、関連イベントを実施する。</p> <p>【平成31年度】</p> <p>・前年の実施状況から内容の見直しを図るとともに、市民参加型のワークショップ(体験講座等)を各種開催予定。</p> <p>・集客力を強化し認知度を高めることで、出演料、出展料の割合を増やし、自主財源の確保に努める。</p> <p>・子どもの活動や作品が発表されることで地域への愛着を醸成するとともに、親世代の文化芸術への関心を高め、幸福感を感じることで定住意識を促進していく。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>基本目標④安心な暮らしを守り幸せを実感できるまちをつくる</p> <p>【数値目標】</p> <p>幸せだと感じている市民の割合:H26 75%→H31 78%【市民意識調査(次回H31実施予定)】</p> <p>住みやすくと感じる市民の割合:H26 84%→H31 87%【市民意識調査(次回H31実施予定)】</p> <p>【KPI】</p> <p>小中学校の教育の取組の満足度:H26 4→H31 5【市民意識調査(次回H31実施予定)】</p> <p>講座・講演会の年間受講者数:H26 8,242人→H31 8,600人【H29実績 9,691人】</p> <p>公民館の利用者数:H26 14万7千人→H31 15万4,200人【H29実績 11万1,197人】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①芸能の祭典Ⅰ・Ⅱ ②歌の祭典 ③音楽の祭典 ④グリム♪ミュージックフェア ⑤書道展 ⑥茶華道展 ⑦市民の作品展	①芸能の祭典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ②歌の祭典 ③音楽の祭典 ④グリム♪ミュージックフェア ⑤書道展 ⑥茶華道展 ⑦市民の作品展	①芸能の祭典Ⅰ・Ⅱ ②歌の祭典 ③音楽の祭典 ④グリム♪ミュージックフェア ⑤書道展 ⑥茶華道展 ⑦市民の作品展		①芸能の祭典Ⅰ・Ⅱ ②歌の祭典 ③音楽の祭典 ④グリム♪ミュージックフェア ⑤書道展 ⑥茶華道展 ⑦市民の作品展
事業費	1,129,212	1,177,496	1,150,000	3,456,708	1,150,000
市町支出金 (ソフト事業分)	884,167	895,493	900,000	2,679,660	900,000
うち県交付金	442,083	447,746	450,000	1,339,829	
市町支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0	
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	245,045	282,003	250,000	777,048	250,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	生涯学習文化課(文化振興グループ)
担当者名	大橋 祐太
電話	0285-32-8919
連絡先 FAX	0285-32-8610
E-mail	syougaiagakusyubunka@city.shimotsuke.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画書(単位事業調書)  
【単独事業】

市 町 名	下野市
事 業 名	下野市産業祭開催事業
事業主体の名称	下野市産業祭実行委員会
代表者の名称	会長 瀧澤 卓倫
事業主体の所在	〒329-0492 下野市笹原26番地
事業主体の概要	<p>団体の目的:市民の産業への関心を喚起し、本市における産業を通じた市民、観光客その他の交流及びその発展に寄与する                  ・設立年月日:ふれあいプラザ実行委員会(平成23年9月1日設立)下野市産業祭実行委員会へ名称変更(平成25年8月12日)                  ・構成員等:産業振興部長、農政課長、商業関係団体の代表者、工業関係団体の代表者、農業関係団体の代表者、観光関係団体の代表者、その他必要な関係団体の代表者</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>下野市(平成18年に旧南河内町、旧石橋町、旧国分寺町の3町が対等合併して誕生)では、古くは日光街道が、現在ではJR宇都宮線、国道4号、新4号国道が南北に縦断している交通の利便性を活用し商工業が発展してきた。また、首都圏に近い立地条件を生かした都市近郊農業が盛んで、特に、本市の特産品でもある「かんびょう」の生産量は全国一を誇っており、近年、地域の特性を活かした銘柄を創出するブランド化を推進しているところである。                  これらの産業振興を図るべく、合併以前から旧石橋町では、「ふれあいプラザ」として地場産品のPRや販売、展示などを行ってきたが、合併後、平成23年からは旧南河内町や旧国分寺町の商工業者も含めて「ふれあいプラザ」を開催、平成25年からは名称を「産業祭」に変更し、地域産業のPRや認知度向上、下野ブランドの定着を図ってきたところ、市内での認知度は高まってきた。                  しかし、(旧石橋町で開催していた事業であり、会場も石橋地区であることから)石橋地区以外の出展が少ない、出展者の固定化が進んでいる、高齢化や後継者不足で出展者が減少しているなどの問題があり、今後いかにして市内全域からの出展や新規出展を増やし、下野ブランドを育成していく後継者を確保しながら、市民自らのプロモーション力を向上させていくかが課題となっている。</p>
事業目的	<p>・下野ブランドをはじめ、下野市の魅力を市内外にPRし、産業を活性化させる。                  ・市内全域からの出展や新規出展を増やし、下野ブランド育成の後継者を確保する。                  ・市民の郷土愛、一体感を醸成する。                  ・商工業者を中心とした市民自らがシティプロモーションを行う。</p>
事業概要	<p>【平成30年度】                  ◎産業祭の開催(10月の第4日曜日) ※しもつけ市民芸術文化祭と同日開催                  ・商工業者の出展: 商工会員を中心に自社製品や取扱商品等のPR・展示・販売                  ・各工業団地による出展: 各企業の製品・商品の展示・販売やパネル等による製造工程説明                  ・食と農の情報発信: 市内で生産されるかんびょうなどの特産品を陳列・販売                  ・公共性のある団体による出展等: 観光協会や各種団体によるポスター等の展示                  ・食品を中心とした下野ブランド認定品の販売                  ・ステージ催事: 市内幼稚園児による発表、小学生による太鼓の演奏                  ・企業協賛によるお楽しみ抽選会、立地企業のPRタイム                  (ステージ総合司会: 地元出身の永井壘及びしもサタバーナリテイ)                  ・市関係課のブースによる施策のPRやパーソナルロボット「Pepper」を活用したプロモーション                  ・技能検定合格者表彰                  ・国家試験である技能検定(うち特級・1級・単一級)の合格者について、これまで単独で表彰式を行っていたが、能力向上の意識啓発促進と産業振興を踏まえ産業祭で実施する。                  ○誘客                  チラン20,000枚を各戸、公共施設、出展する事業所に配布するほか、ポスター50枚を市内公共機関、JR小井井駅、自治医大駅、石橋駅、自治医科大学附属病院内掲示板に掲示予定。                  近隣の公園に第3駐車場を設置しシャトルバスを運行する。</p> <p>【平成31年度】                  より産業振興に資するイベントとなるよう、後継者確保や市民の郷土愛の醸成につながるような取組を検討し、リニューアルしながら実施していく。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>基本目標①魅力的で安定した雇用を創出する ②東京圏からの新しいひとの流れをつくる                  【数値目標】 転入者数: H26 2,319人→H31 2,550人 【H28実績 2,276人】                  【KPI】                  企業交流会・講習会の開催回数: H26 年1回→H31 毎年開催 【H28実績 年1回】                  事業所数: H26 113事業所→H31 120事業所 【H28実績 107事業所】                  地産地消応援認定数: H26 47事業所→H31 60事業所 【H28実績 51事業所】                  下野ブランド認定件数: H26 24件→H31 40件 【H28実績 32件】                  パーソナルロボットイベント参加回数: H26 0回 → H31 延50回以上 【H28実績 延16回】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	第5回下野市産業祭開催 ・商工業者、公共団体の出展 ・食と農の情報発信 ・下野ブランドPR	第6回下野市産業祭開催 ・商工業者、公共団体の出展 ・食と農の情報発信 ・下野ブランドPR	第7回下野市産業祭開催 ・商工業者、公共団体の出展 ・食と農の情報発信 ・下野ブランドPR		第8回下野市産業祭開催 ・商工業者、公共団体の出展 ・食と農の情報発信 ・下野ブランドPR
事業費	2,875,612	2,558,780	3,201,000	8,635,392	3,201,000
市町支出金 (ソフト事業分)	2,575,475	2,458,772	3,200,000	8,234,247	3,200,000
うち県交付金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	300,137	100,008	1,000	401,145	1,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	商工観光課(商工業・労働グループ)
担当者名	野口 修一
電話	0285-32-8907
FAX	0285-32-8611
E-mail	syoukoukankou@city.shimotsuke.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画書(単位事業調書)  
【単独事業】

市町名	下野市
事業名	いしばし納涼踊り花火大会開催事業
事業主体の名称	いしばし納涼踊り花火大会実行委員会
代表者の名称	実行委員長 吉田 宗司
事業主体の所在	〒329-0511 下野市石橋790-17
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の目的: 踊り花火を通じ地域住民の連帯感をほぐし、明るく住みよいまちづくりを図る。</li> <li>・設立年月日: 昭和48年</li> <li>・構成員等: 石橋商工会役員・理事、下野市、電気工事組合、建友会、音頭おはやし会、下野市立地工場連絡協議会、石橋中学校PTA連絡会、自治会連絡協議会、警察、消防</li> </ul>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>下野市・石橋地区には、JR石橋駅を中心とした昔からの商店街や住宅地があるが、高齢化の進展とともに閉店する商店が増え、空き店舗の増加や用途変更による駐車場利用など、市街地のスポンジ化が進んでいる。</p> <p>その一方で、地域の祭りとして昭和48年から続く「いしばし納涼踊り花火大会」は、地域住民の交流を促進し、業種を超えた交流や情報交換の場として機能するほか、近年誕生した新興住宅地と従来の住宅地の新旧住民や世代を超えた人々の交流の場としても重要な役割を担うなど、空洞化が進む街においても、地域コミュニティを維持することに貢献してきた。また、平成18年の旧国分寺町、旧南河内町との合併後は、下野市を代表するお祭りの1つとして市内外より多くの人が訪れる行事となっている。</p> <p>しかし、お祭りの中心となって活動してきた商工業者も高齢化が進み、後継者不足により廃業となるなど、将来的な祭りの担い手の不足が懸念されている。地域住民の交流を促し、絆を深めてきた祭りの衰退は、地域の活力低下やさらなる若者の流出につながりかねない。いかにして石橋地区への訪問者を増やし、地域の良さを知り将来的に住み続けたい街として実感してもらえかが課題となっている。</p>
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民自らが地域を盛り立てていく。</li> <li>・子どもの郷土愛を醸成する。</li> <li>・地域の連帯感を育む。</li> <li>・下野市(石橋地区)を訪れるきっかけをつくり、地域の良さを知らせ将来的な移住・定住候補地として考えてもらう。</li> </ul>
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>○盆踊り花火大会の開催: 8月4日(土) 雨天時は翌日に順延</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み時期に開催することにより、帰省者のUターン促進のため、市のPRを行う。</li> <li>・地元のおはやし団体による音頭はやし演奏(約15名)</li> <li>・盆踊り・・・地域団体、スポーツ少年団、PTA、立地企業等がグループで盆踊りを披露し、審査・表彰する。</li> <li>・花火・・・1,100発</li> <li>・屋台・・・十数店舗</li> </ul> <p>※今年度は、地域の商店の出店を促進させ、地域の連帯感を一層高める。</p> <p>○事前PR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞(下野・読売・毎日・朝日)折込、商工会員事業所・実行委員(市・PTA・自治会)の関連施設へのポスター掲示、ホームページやタウン情報誌(もんみや)への掲載のほか、SNS(青年部を中心としたツイッター)を開設し、広くPRを行う。</li> </ul> <p>【平成31年度以降】</p> <p>より郷土愛や連帯感を育むためのイベントとなるようリニューアルしながら実施する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>基本目標②東京圏からの新しいひとの流れをつくる ④安心なくらしを守り幸せを実感できるまちをつくる</p> <p>【数値目標】</p> <p>幸せだと感じている市民の割合: H26 75%→H31 78% 【市民意識調査(次回H31実施予定)】</p> <p>住みやすいと感じる市民の割合: H26 84%→H31 87% 【市民意識調査(次回H31実施予定)】</p> <p>観光入込客数: H26 252万人→H31 277万人 【H28実績 247万人】</p> <p>転入者数: H26 2,319人→H31 2,550人 【H28実績 2,276人】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位: 円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	・盆踊り大会 ・花火大会	・盆踊り大会 ・花火大会	・盆踊り大会 ・花火大会		・盆踊り大会 ・花火大会
事業費	4,463,595	4,166,699	4,920,000	13,550,294	4,920,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,467,000	1,372,000	1,640,000	4,479,000	1,640,000
うち県交付金	733,500	686,000	820,000	2,239,500	
市町支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	2,996,595	2,794,699	3,280,000	9,071,294	3,280,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	商工観光課(商工業・労働グループ)
担当者名	野口 修一
電話	0285-32-8907
FAX	0285-32-8611
E-mail	syoukoukankou@city.shimotsuke.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画書(単位事業調書)  
【単独事業】

市町名	下野市
事業名	石橋商工会賑わい祭開催事業
事業主体の名称	石橋商工会
代表者の名称	会長 吉田 宗司
事業主体の所在	〒329-0511 下野市石橋790-17
事業主体の概要	<p>・団体の目的:地区内における商工業の総合的な改善発達を図り、あわせて社会一般の福祉の増進に資し、もって国民経済の健全な発展に寄与する。</p> <p>・設立年月日:昭和35年9月16日</p> <p>・構成員等:本商工会の地区内において、引き続き6月以上 営業所、事務所工場又は事業場を有する商工業者</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>石橋駅前商店街は、かつての宿場町で、馬市がおかれ、戦後も家畜市場やかんぴょう問屋のある賑やかな商店街であったが、高齢化やモータリゼーションに伴い、空き店舗の増加や用途変更による駐車場利用など、市街地の空洞化が進んでいる。また、昭和35年から、住民の交流の場や各店舗の商品PRの場として「賑わい祭り」が開催されてきたが、後継者不足などから出展者の減少傾向が続いていた。</p> <p>商店街の活性化に寄与してきた「賑わい祭り」の衰退は、商店街、さらには石橋地域の商工業の衰退につながりかねないと、平成27年には、商店街に代わり商工会が主体となって、商店街のみでなく広く石橋地域の商工業者に参加を呼びかけ、9月に賑わい祭り、10月に駅前の商店街を中心とした軽トラ市を開催したところ、約2,000名の来場があるなど、それまでを上回る賑わいを見せた。さらに昨年度から、かつての中心商店街だった石町通りを会場に、完全歩行者天国にすることで、交通安全上の問題を解決するなど誘客力の向上に努めている。</p> <p>しかし、出展者の減少という問題は解決していないことから、いかにしてこれらの問題を解消しつつ、商工会の後継者を確保して駅前商店街の賑わいを創出していくかが課題となっている。</p>
事業目的	<p>・駅前商店街の賑わいを取り戻す。</p> <p>・商工会の後継者を増やす。</p> <p>・消費者、生産者、販売者の交流を促す。</p> <p>・石橋駅前商店街を訪れ、地域の良さを知ってもらい、将来的に移住・定住、商工会メンバーになってもらう。</p>
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>◎賑わい祭の開催(10月第3日曜日) 於:石町通り(市道2251号線)</p> <p>【軽トラ市】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽トラック等で農産物、加工品、商工業用品等の販売</li> <li>・ワークショップの出店を増やし、親子で楽しめる来場者参加型の催しを企画</li> </ul> <p>【メインステージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒーローショーや市民グループによるパフォーマンス実施</li> <li>・ビンゴゲームやじゃんけん大会、アイス早食いなど</li> </ul> <p>※従来の賑わい祭と軽トラ市を発展的に統合することでより多くの誘客を図るとともに、出展者間の交流を促進する。</p> <p>◎誘客</p> <p>祭り出店者や商工会員店舗、下野・読売・毎日・朝日新聞への折込でチラシを配布するとともにホームページに掲載し広くPRを行う。</p> <p>【平成31年度以降】</p> <p>より地域の活性化や商業振興に資するイベントになるようリニューアルしながら実施する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>基本目標①魅力的で安定した雇用を創出する ②東京圏からの新しいひとの流れをつくる</p> <p>【数値目標】</p> <p>観光入込客数:H26 252万人→H31 277万人【H28実績 247万人】</p> <p>【KPI】</p> <p>制度融資新規活用件数:H26 177件→H31 200件【H28実績 172件】</p> <p>駅前広場事業実施箇所数:H26 2箇所→H31 5箇所【H28実績 3か所】</p> <p>空き店舗奨励金等活用件数:H26 2件→H31 延15件【H28実績 延9件】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物、加工品、商工業用品の販売</li> <li>・ヒーローショーや市民グループによるパフォーマンス</li> <li>・ビンゴゲームやじゃんけん大会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物、加工品、商工業用品の販売</li> <li>・幼稚園児、小学生や市民グループによるパフォーマンス</li> <li>・ビンゴゲームやじゃんけん大会、アイス早食い競争、千本釣り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物、加工品、商工業用品の販売</li> <li>・ヒーローショーや市民グループによるステージパフォーマンス</li> <li>・ビンゴゲームやじゃんけん大会などの参加型イベント</li> </ul>		
事業費	1,537,069	1,500,898	1,550,000	4,587,967	1,288,000
市町支出金 (ソフト事業分)	228,000	470,000	516,000	1,214,000	229,000
うち県交付金	114,000	235,000	258,000	607,000	
市町支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	1,309,069	1,030,898	1,034,000	3,373,967	1,059,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	商工観光課(商工業・労働グループ)
担当者名	野口 修一
電話	0285-32-8907
FAX	0285-32-8611
E-mail	syoukoukankou@city.shimotsuke.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画書(単位事業調査)  
【単独事業】

市町名	下野市
事業名	しもつけお笑いグランプリ開催事業
事業主体の名称	しもつけお笑いグランプリ実行委員会
代表者の名称	実行委員長 鶴見 健太郎
事業主体の所在	〒329-0511 下野市石橋790-17
事業主体の概要	<p>・団体の目的:石橋商工会青年部を中心とした若者たちによる地域の活性化や笑いによる幸福度アップを図る。</p> <p>・設立年月日:イブニングライズ実行委員会(平成元年設立)、しもつけお笑いグランプリ実行委員会に名称変更(平成26年度)</p> <p>・構成員等:石橋商工会青年部員及び地域の有志</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>下野市・石橋地区には、JR石橋駅を中心とした昔からの商店街や住宅地があるが、高齢化の進展とともに閉店する商店が増え、空き店舗の増加や用途変更による駐車場利用など、市街地の空洞化が進んでいる。</p> <p>商工会等が中心となって様々な活性化の取組を行っているが、各取組は模索・実行段階にあり、まだ明確な成果が出ているわけではない。そこで、平成元年、数少ない商工会の後継者が集まり、若手のアイデアで活性化に貢献しようと、イブニングライズ実行委員会を設立し、コンサート中心のイベントを開催してきたが、近年では事業がマンネリ化し、来場者が減少してきたことに伴い事業規模も縮小していた。</p> <p>そのため、平成26年に、事業のあり方を見直し、地域の活性化には「笑い」が必要だと「お笑いグランプリ」を開催するとともに、近年下野市で力を入れている特産品を活かした「ご当地グルメ選手権」を開催したところ、久しぶりに来場者が増えた。</p> <p>しかし、まだ開催3年目ということで認知度は高くないこともあり、今後いかにして地域住民に愛される、石橋地区の資源にしていけるか、また、これをきっかけに人を呼び込み商工会の後継者を増やしていくかが課題となっている。</p>
事業目的	<p>・石橋地区の商工業を活性化させる。</p> <p>・商工会の後継者を増やす。</p> <p>・下野ブランドの魅力を市民自身が再確認し、誇れる街とする。</p> <p>・下野市(石橋地区)を訪れるきっかけをつくり、地域の良さを知ってもらい将来的な移住・定住候補地として考えてもらう。</p>
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>○しもつけお笑いグランプリの開催(9月実施予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・30組のお笑い芸人がコント・漫才でお笑いバトルを繰り広げる。</li> <li>・電撃ネットワークのギョウゾウさんや栃木GBなどのプロ選手をはじめとした審査員を迎え、プレミア感を演出する。</li> <li>・本年度より会場をグリムの館に移しチケット制を導入し、自己財源の確保に努める。</li> </ul> <p>○市内店舗によるマルシェ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場前広場に大型モニターを設置し、マルシェで飲食しながら見物できるようにする。</li> <li>・実行委員会が考案する新メニューを提供する(過去の例:しもつけ井やかんぼらなど)。</li> <li>・下野ブランド商品の販売のため「道の駅しもつけ」にも出店してもらい集客効果の向上と下野産品のPRを図る。</li> <li>・下野市商工会青年部も協力し、子どもも楽しめる縁日コーナーを出店する。</li> </ul> <p>☆司会に下野市出身のものまね芸人「永井壘」と本市の特命シティプロモーション課リポーター「ミッシェー」を起用し、随所に「しもつけいじり」を交えながらPRトークを行う。</p> <p>○事前PR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞折り込みを下野新聞だけでなく、読売・朝日・毎日にも拡大していくとともに、ツイッターやフェイスブックなどのSNSを活用したPRを取り入れる。</li> <li>・市内中学校や高校にチラシを配布し、流行に敏感な若年層の来場を促す。</li> <li>・出演する芸人のみならず、SNSでの告知やPRを依頼し、ファンの方へ情報発信することでより広くPRする。</li> </ul> <p>【平成31年度以降】</p> <p>将来的には出店料や入場料をとることで自主運営を検討していく。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>基本目標②東京圏からの新しいひとの流れをつくる ④安心なくらしを守り幸せを実感できるまちをつくる</p> <p>【数値目標】</p> <p>転入者数:H26 2,319人→H31 2,550人【H28実績 2,276人】</p> <p>観光入込客数:H26 252万人→H31 277万人【H28実績 247万人】</p> <p>幸せだと感じている市民の割合:H26 75%→H31 78%【市民意識調査(次回H31実施予定)】</p> <p>【KPI】</p> <p>下野ブランド認定件数:H26 24件→H31 40件【H28実績 32件】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	・お笑いグランプリ ・下野ブランドPR・販売 ・ご当地グルメ選手権	・お笑いグランプリ ・下野ブランドPR・販売 ・ご当地グルメ選手権	・お笑いグランプリ ・下野ブランドPR・販売 ・ご当地グルメ選手権		・お笑いグランプリ ・下野ブランドPR・販売 ・ご当地グルメ選手権
事業費	543,614	600,168	900,000	2,043,782	900,000
市町支出金 (ソフト事業分)	181,000	200,000	300,000	681,000	300,000
うち県交付金	90,500	100,000	150,000	340,500	
市町支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0	
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	362,614	400,168	600,000	1,362,782	600,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	商工観光課(商工業・労働グループ)
担当者名	野口 修一
電話	0285-32-8907
FAX	0285-32-8611
E-mail	syoukoukankou@city.shimotsuke.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画書(単位事業調査)  
【単独事業】

市町名	下野市
事業名	下野市商工会青年部夏まつり開催事業
事業主体の名称	下野市商工会青年部
代表者の名称	部長 星野 雄亮
事業主体の所在	〒329-0412 下野市柴897-10
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の目的:商工業の後継者たるべき青年の経営者としての資質を向上させ、商工業の総合的な改善発達を図り、あわせて社会一般の福祉の増進に資する</li> <li>・設立年月日:平成24年4月(南河内商工会、国分寺商工会の合併により設立)</li> <li>・構成員等:本商工会の会員たる商工業者(法人にあってはその役員)又はその親族であり、かつ、その会員の営む事業に従事する者であって、年齢満45歳以下の者</li> </ul>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>下野市は平成18年に旧石橋町、旧南河内町、旧国分寺町が合併してできたが、商工会としては、平成24年に南河内町商工会と国分寺商工会が合併して下野市商工会となった。その際、旧各商工会の青年部(地域の商工業のこれからを担う若者たちの組織)同士、交流と一体感を深めた方がよいと、様々な取組をしてきたが、さらに各旧町の住民との交流も図るため、平成24年から下野市商工会青年部夏まつりを開催してきたところ、少しずつ交流が深まってきた。</p> <p>しかし、商工会青年部の人数は多くなく、今後さらに人口減少が進むと商工会青年部(商工会の後継者)の存続も危ぶまれる。そのため、いかにして商工会青年部と住民の交流を図りつつ、商工会の後継者を確保していくかが課題となっている。</p>
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に根ざした商工業を育成する。</li> <li>・住みたい地区として、移住定住候補地になる。</li> <li>・子どもの郷土愛を醸成し、将来的なUターン、定住意識を育てる。</li> </ul>
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>○夏まつりの開催(8月第3日曜日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み時期に開催し、帰省客の取り込みや子どもの参加を促す。</li> <li>・小学生以下の子どもを対象にした参加体験型の催しを実施し、親子で気軽に参加できるイベントとする。</li> <li>・ゲーム(射的、型抜き、スマートボール、ラッキーボール)</li> <li>・イベント(抽選会、愛泉童太鼓、バルーンアート、ゆるキャラショー)</li> <li>・模擬店(かき氷、焼きそば、ジュース、フランクフルト、アユのつかみ取り)</li> <li>・親子木工教室、クラフト体験</li> </ul> <p>☆石橋商工会青年部も出店協力する。</p> <p>○事前PR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスター20枚、チラシ5,000枚を市内小学校、幼稚園、保育園に配布するほか、HPやSNSを活用し、広く情報発信する。</li> </ul> <p>【平成31年度以降】</p> <p>売上げを伸ばし自立性を高めていく。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>基本目標②東京圏からの新しいひとの流れをつくる ④安心なくらしを守り幸せを実感できるまちをつくる</p> <p>【数値目標】</p> <p>観光入込客数:H26 252万人→H31 277万人【H28実績 247万人】</p> <p>転入者数:H26 2,319人→H31 2,550人【H28実績 2,276人】</p> <p>幸せだと感じている市民の割合:H26 75%→H31 78%【市民意識調査(次回H31実施予定)】</p> <p>住みやすいと感じる市民の割合:H26 84%→H31 87%【市民意識調査(次回H31実施予定)】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周知広報活動</li> <li>・出展者募集</li> <li>・夏まつり開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周知広報活動</li> <li>・出展者募集</li> <li>・夏まつり開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周知広報活動</li> <li>・出展者募集</li> <li>・夏まつり開催</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・周知広報活動</li> <li>・出展者募集</li> <li>・夏まつり開催</li> </ul>
事業費	641,576	414,469	600,000	1,656,045	900,000
市町支支出金 (ソフト事業分)	213,000	138,000	200,000	551,000	250,000
うち県交付金	106,500	69,000	100,000	275,500	
市町支支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	428,576	276,469	400,000	1,105,045	650,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	商工観光課 商工業・労働グループ
担当者名	野口 修一
電話	0285-32-8907
FAX	0285-32-8611
E-mail	syoukoukankou@city.shimotsuke.lg.jp



栃木県わがまち未来創造事業計画書(単位事業調査)  
【単独事業】

市町名	下野市
事業名	下野市天平マラソン大会
事業主体の名称	下野市体育協会
代表者の名称	下野市体育協会 会長 野口俊明
事業主体の所在	〒329-0492 栃木県下野市笹原26 (下野市教育委員会事務局スポーツ振興課内)
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の目的:生涯スポーツの普及と振興を図り、市民の体力向上とスポーツマンシップを涵養することに努めるとともに、明るく豊かで潤いに満ちた市民生活と文化の形成に寄与する。</li> <li>・設立年月日:平成18年3月26日設立</li> <li>・構成員等:20種目別競技団体加盟</li> </ul>
当該事業に係る地域の現状と課題	文化・歴史の薫る天平の丘公園周辺をコースとした天平マラソン大会は、年々参加者が増加し市内外から2,000名を超える参加者数となり、生涯スポーツの推進、選手間の交流及び本市のイメージアップ、PRの場として開催している。しかし、豊富な歴史的資源等があるにも関わらず、単に大会への参加にとどまり滞在時間、再来訪者も少ない。本大会は、下野市の魅力を発信する貴重な機会のひとつであるが、現状ではまだまだ情報発信が十分でないことが課題となっている。
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく健康で潤いに満ちた生活を営むための要素としての生涯スポーツの振興を図る。</li> <li>・大会を通し、役員や参加者間の交流が生まれ地域を超えた親睦の輪を広げる機会を提供する。</li> <li>・多くの人々が集うことで地域を活性化し、地域の一体感や郷土愛の醸成を図る。</li> <li>・本市の歴史、文化、特産品、自然などの資源、魅力の発信の場とし、本市への来訪者の増加を図る。</li> </ul>
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>開催時期は:平成31年1月14日(成人の日) 天平の丘公園発着</p> <p>①大会の開催準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営会議等の開催…打ち合わせ会により体協陸上部と今年度大会内容の確認を行い、役員の分配を決定する調整会議、担当役員の役割を説明する役員説明会等を実施</li> <li>・参加申込書、プログラム等の作成</li> <li>・大会のPR…ネットエントリーサービス(ランネット)を利用した大会紹介ページの作成・広告 SNSを使った情報発信</li> </ul> <p>②大会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技種目は6コース(ハーフ・10km・5km・3km・2km)による20クラス</li> <li>・表彰は、各クラス1位～3位までメダル・賞状・副賞、4位～6位まで賞状・副賞を授与。完走者には記録証を交付</li> <li>・参加者には、記念品を配布</li> <li>・今年度から新たに、各種目に飛び賞を配布</li> <li>・ランナーの交錯するコースを見直し、おやこコースを1kmから2kmに変更し参加者の満足度向上を図る。</li> <li>・先導車による護衛体制を乗用車からバイクへ変更し、追い越し等による交通危険因子の排除及び大会の安全性向上を図る</li> </ul> <p>③市PRの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特産品であるかんぴょうを使ったかんぴょう汁の無料配布</li> <li>・プログラム、特設ブースを利用した下野市のPR</li> </ul> <p>【平成31年度】</p> <p>平成30年度の実績を踏まえ、市のPRも兼ねたスポーツイベントとして取り組んでいく。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>基本目標②東京圏からの新しいひとの流れをつくる ④安心なくらしを守り幸せを実感できるまちをつくる</p> <p>【数値目標】観光入込客数:H26年252万人 ⇒ H31年277万人【H26実績 247万人】</p> <p>【KPI】</p> <p>スポーツ活動の実施率:H26年51.7% ⇒ H31年53.0%【市民アンケート調査(次回H32実施予定)】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	30年度	31年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	第12回下野市天平マラソン大会の開催 ①大会の開催準備 ②大会の開催 ③下野市のPRの実施	第13回下野市天平マラソン大会の開催 ①大会の開催準備 ②大会の開催 ③下野市のPRの実施	第14回下野市天平マラソン大会の開催 ①大会の開催準備 ②大会の開催 ③下野市のPRの実施		下野市天平マラソン大会の開催 ①大会の開催準備 ②大会の開催 ③下野市のPRの実施
事業費	4,761,983	4,855,000	4,780,000	14,396,983	4,780,000
市町支出金 (ソフト事業分)	813,483	880,000	880,000	2,573,483	880,000
うち県交付金	406,741	440,000	440,000	1,286,741	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	3,948,500	3,975,000	3,900,000	11,823,500	3,900,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	スポーツ振興課(スポーツ振興グループ)
担当者名	佐藤 養祐
電話	0285-32-8920
FAX	0285-32-8611
E-mail	sports@city.shimotsuke.lg.jp

栃木県がまち未来創造事業計画書(単位事業調書)  
【単独事業】

市町名	下野市
事業名	第8回 しもつけかんぴょうまつり
事業主体の名称	しもつけかんぴょうまつり実行委員会
代表者の名称	しもつけかんぴょうまつり実行委員会 会長 池田 榮
事業主体の所在	〒329-0492 下野市笹原26番地
事業主体の概要	<p>■団体の目的 下野市の特産品(ブランド)である「かんぴょう」をPRするとともに、かんぴょうに関する様々なイベントを開催し生産者と消費者の交流を通してかんぴょうの生産振興と消費拡大を図ることを目的とする。</p> <p>■設立年月日 平成23年6月27日設立</p> <p>■構成員等 かんぴょう生産者・認定農業者連絡協議会・農業士会・農業委員会・農村生活研究グループ・農産物加工組合・JAおやま・JAうつのみや・栃木県干瓢商業協同組合・商工会・しもつけ地域活性化委員会・観光協会</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	下野市は、かんぴょう生産量日本一を誇る生産地であるが、生産農家の高齢化や後継者不足等により生産量が減少している状況にあることから、当該事業を通じ市の特産品である「かんぴょう」の魅力を多くの消費者の方々に発信し、かんぴょうの生産振興及び消費拡大を図るとともに、生産後継者の掘り起こしを行い生産量の維持・増をしていく必要がある。
事業目的	下野市の特産品(ブランド)である「かんぴょう」をPRするとともに、かんぴょうに関する様々なイベントを開催し生産者と消費者の交流を通してかんぴょうの生産振興と消費拡大を図ることを目的とする。本イベントを通じブランド食材であるかんぴょうを消費者に身近に感じてもらうとともに、食物繊維やミネラルを多く含む健康食材であることを幅広くアピールし、消費拡大につなげていく。
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>■実行委員会の開催・・・事業内容・予算の検討、事業詳細確認・役割分担、事業報告・決算 計2回開催(①6月中、②8月中)</p> <p>■しもつけかんぴょうまつりの開催 かんぴょうの生産振興と消費拡大を図るため、下記の取組を行う ・開催日時:7月21日 ・開催場所:道の駅しもつけ ・開催のPR・・・市広報紙・ポスター・チラシ配付(チラシは市内全小学校へ配布) ・かんぴょうむぎ・干し体験(都市消費者交流事業) ・ふくべ重さ当て・ふくべ絵付け体験(都市消費者交流事業)・ジャンボふくべコンテスト ・かんぴょう料理教室(都市消費者交流事業)・かんぴょう汁のサービス・かんぴょう料理レシピの配布 ・かんぴょうを身近に感じていただき普及促進を図るため、かんぴょう料理新メニューコンテストを実施する。(大人の部・子供の部・ヘルシー部門) ・市のPR動画に出演したアクション俳優によるヒーローショーを開催し、親子連れで楽しめるイベントにするとともに、市のPR活動を行う。</p> <p>【平成31年度】 都市消費者交流事業の参加メニューを増やし、より多くの消費者の皆さんにかんぴょうの魅力PRしていくとともに、生産者の生産意欲を高めていく取り組みを行う</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>基本目標①魅力的で安定した雇用を創出する ②東京圏からの新しいひとの流れをつくる</p> <p>【KPI】 新メニューの提供数:H26年- ⇒ H31年延べ10件 【H29実績 4件】 市地産地消応援認定数:H26年47事業所 ⇒ H31年60事業所 【H29実績 52事業所】 新規就農者数:H26年8人 ⇒ H31年10人 【H29実績 4人】 地産地消イベント開催数:H26年4回 ⇒ H31年6回 【H29実績 5回】 下野ブランド認定件数:H26年24件 ⇒ H31年40件 【H28実績 32件】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	30年度	31年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>実行委員会の開催</li> <li>かんぴょうむぎ、干し体験</li> <li>ふくべ重さ当て</li> <li>ふくべ絵付け体験</li> <li>ジャンボふくべコンテスト</li> <li>かんぴょう料理教室</li> <li>かんぴょう汁のサービス</li> <li>かんぴょう料理レシピの配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実行委員会の開催</li> <li>かんぴょうむぎ、干し体験</li> <li>ふくべ重さ当て</li> <li>ふくべ絵付け体験</li> <li>ジャンボふくべコンテスト</li> <li>かんぴょう料理教室</li> <li>かんぴょう汁のサービス</li> <li>かんぴょう料理レシピの配布</li> <li>都市消費者との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実行委員会の開催</li> <li>かんぴょうむぎ、干し体験</li> <li>ふくべ重さ当て</li> <li>ふくべ絵付け体験</li> <li>ジャンボふくべコンテスト</li> <li>かんぴょう料理教室</li> <li>かんぴょう汁のサービス</li> <li>かんぴょう料理レシピの配布</li> <li>都市消費者との交流</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>実行委員会の開催</li> <li>かんぴょうむぎ、干し体験</li> <li>ふくべ重さ当て</li> <li>ふくべ絵付け体験</li> <li>ジャンボふくべコンテスト</li> <li>かんぴょう料理教室</li> <li>かんぴょう汁のサービス</li> <li>かんぴょう料理レシピの配布</li> <li>都市消費者との交流</li> </ul>
事業費	437,927	418,000	418,000	1,273,927	418,000
市町支出金 (ソフト事業分)	418,300	418,000	418,000	1,254,300	418,000
うち県交付金	172,000	150,000	150,000	472,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	19,627	0	0	19,627	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	農政課(農業振興グループ)
担当者名	米井 正和
電話	0285-32-8906
連絡先 FAX	0285-32-8611
E-mail	nousei@city.shimotsuke.ig.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画書(単位事業調査)  
【単独事業】

市町名	下野市
事業名	絶滅危惧種トウサワトラノオ保護事業 ～保護から生まれる地域未来創造～
事業主体の名称	下野市トウサワトラノオ保存会
代表者の名称	会長 黒川 英代
事業主体の所在	下野市東根 地内
事業主体の概要	<p>・団体の目的：絶滅危惧種トウサワトラノオの保護及びPR活動を行う。</p> <p>・設立年月日：平成24年5月24日</p> <p>・構成員等：南河内土地改良区(江川・五千石地区整備委員会)、東根自治会、県立小山北桜高等学校、下野市自然に親しむ会、下都賀農業振興事務所(整備部整備課)、下野市(農政課)</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>下野市には、絶滅危惧種「トウサワトラノオ」の群生地がある(※)。平成18年に50年ぶりに確認され、県が保全地を造成し管理を行っていたが、平成24年に管理が下野市に移ったことをきっかけに、下野市トウサワトラノオ保存会を設立し、以降、トウサワトラノオ保護のため、生育状況の調査や保全地の草刈り等の保護活動を行ってきた。また、これまで下野市は「通り道」であることが多く、なかなか「目的地」とは認識されることがなかったが、トウサワトラノオの群生地の発見により観光客の増加が期待され、NHK等のマスコミを通してトウサワトラノオのPR活動を行ってきた。今年度はNHK放映の翌日には100人程度の来客があり、以降千葉県や遠くは四国から保全地を訪れる姿も見られた。このため、保全地の案内看板を設置したり、お菓子「東根の華〜トウサワトラノオ〜」を制作し、地元小学校の卒業式や市賀詞交歓会などで配布し地元のPRを行った。</p> <p>しかし、群生地の規模が大きいため、その維持管理には手間がかかる上、国内でも2ヶ所しか見られない絶滅危惧種であるにも関わらず、トウサワトラノオの知名度はあまり高くなく、観賞に訪れる人は市民の一部もしくはマスコミ等で存在を知り得た視聴者のみである。そのため、今後いかにしてトウサワトラノオを保護しながら、トウサワトラノオを活用して地域に人を呼び込むかが課題となっている。</p> <p>※ 国内で自生しているのは栃木県と愛知県のみと言われる花で本県では絶滅したとされていた。良好な圃場を維持してきた地元の努力の結果であり、発見後は保全地を造成し人為的な保護活動を行い、現在これほどの大群落を保っているのは下野市のみ。</p>
事業目的	<p>・トウサワトラノオの生育環境を守る。</p> <p>・絶滅危惧種であるトウサワトラノオが生息する自然環境と、その保全活動を観光客等に周知し下野市に人を呼び込む。</p> <p>・近隣に位置する「道の駅しもつけ」への誘客を促し、物産品や土産物の購入を通して下野市の魅力を知ってもらう。</p> <p>・東根自治会が保全してきたトウサワトラノオの咲く自然環境を観光客にPRすることにより、自然を保全することの大切さや、下野市の貴重な生態系について、多くの人に理解してもらう。</p>
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>《トウサワトラノオの生育環境を守る》</p> <p>○東根自治会・トウサワトラノオ保存会・下都賀農業振興事務所・小山北桜高校・下野市自然に親しむ会参加のもと、保全地の一斉草刈り作業(開花後、秋の雑草繁茂後)を実施する。その他、草刈り時に発生した枯草の焼却作業、雑草対策(灌漑期の5〜8月・除草剤散布)、湛水管理(灌漑期の5〜8月)を行い、生育環境維持のための活動を行う。</p> <p>○保全に向けた実証実験を実施</p> <p>小山北桜高校生物部の小林先生及び学生の監修のもと、地元自治会及び小学生の協力により、適切な保全手法の検証のための実験を行う。</p> <p>A: 薬剤散布による除草 B: 草刈りによる除草後、施肥 C: 草刈り後耕うん 施肥 D: 草刈り後耕うん 施肥なし</p> <p>《トウサワトラノオを活用して人を呼び込む》</p> <p>○「花を見る会」の開催。</p> <p>○トウサワトラノオの説明パネルや保全活動状況の解説パネルを制作し、イベントや道の駅しもつけに展示。</p> <p>《将来にわたり保護する体制をつくる》</p> <p>○トウサワトラノオの観察研究、調査結果発表(県立小山北桜高校)の開催。</p> <p>○小山北桜高等学校・吉田西・東小学校の交流事業(学校校庭内のビオトープ(小規模な生息空間)にトウサワトラノオ管理作業)の開催。</p> <p>【平成31年度】</p> <p>・実証実験の結果を踏まえ、保存会と協力しながら、保護活動と観光資源化のバランスに配慮し、地域資源としての活用を検討する。</p> <p>・小山北桜高等学校等との交流事業の中で、絶滅危惧種ゆるキャラの企画・製作を検討する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>基本目標②東京圏からの新しいひとの流れをつくる</p> <p>【数値目標】観光入込客数:H26 252万人→H31 277万人【H27実績 256万人】</p> <p>【KPI】道の駅しもつけ利用者数:H26 260万人→H31 280万人【H28実績 237万人】</p> <p>下野ブランド認定件数:H26 24件→H31 40件【H28実績 32件】</p> <p>市ホームページアクセス数:H26 110万件→H31 120万件【H27実績 124万件】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

事業内容	28年度			29年度			30年度			支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
	①保全地周辺の環境整備	②開花後の案内、見守り活動	③観察会「花を見る会」の開催、研究発表	④保全地の除草作業	⑤保全活動のPR事業	①保全地周辺の環境整備	②開花後の案内、見守り活動	③観察会「花を見る会」の開催、研究発表	④保全地の除草作業		
事業費	300,000	600,000	390,000	300,000	600,000	390,000	1,290,000	200,000			
市町支出金 (ソフト事業分)	300,000	600,000	390,000	300,000	600,000	390,000	1,290,000	200,000			
うち県交付金	105,000	256,000	150,000				511,000				
市町支出金 (ハード事業分)							0				
うち県交付金							0				
その他自主財源等	0	0	0	0	0	0	0	0		0	

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	農政課 農村整備グループ
担当者名	青木 大輔
電話	0285-32-8906
FAX	0285-32-8611
E-mail	nousei@city.shimotsuke.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画書(単位事業調査)  
【単独事業】

市町名	下野市
事業名	国分寺地区盆踊り&花火大会
事業主体の名称	国分寺地区コミュニティ盆踊り&花火大会実行委員会
代表者の名称	実行委員長 岡本 鉄男
事業主体の所在	下野市小金井5-22-1
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の目的:大会開催を通じて、市民の力で地域の連帯感を醸成する。</li> <li>・設立年月日:昭和61年</li> <li>・構成員等:国分寺中央コミュニティ推進協議会及び同協議会内自治会</li> </ul>
当該事業に係る地域の現状と課題	国分寺地区はJR小金井駅を中心とした住宅地とその周辺の農村地域からなる。集合住宅の増加や核家族化等生活様式が大きく変化した、かつての地域共同体が失われ地域の連帯感が希薄になりつつある。そのため、地域の連帯感を高めていく取り組みが求められている。
事業目的	本大会を住民自ら手づくり開催するとともに、多くの市民の来訪により、地域の連帯感を醸成する。また、地元中学生の参加により、子どもの郷土愛を醸成する。
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○盆踊り&amp;花火大会の開催</li> <li>・開催日:平成30年8月4日、荒天の場合は盆踊りは中止し、花火のみ打上予定</li> <li>・盆踊り大会:地元お囃子会の演奏により地元各種団体が演技、審査表彰する。</li> <li>・花火大会:30分程度花火を打ち上げる。</li> </ul> <p>【平成31年度以降】</p> <p>前年度開催内容を検証のうえ、改善すべき点があれば対応しながら、継続して開催していく。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>基本目標④安心な暮らしを守り幸せを実感できるまちをつくる</p> <p>【数値目標】</p> <p>幸せだと感じている市民割合:H26 75%→H31 78%【市民意識調査(次回H31実施予定)】</p> <p>住みやすいと感じる市民の割合:H26 84%→H31 87%【市民意識調査(次回H31実施予定)】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	30年度	31年度	31年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	盆踊り&花火大会の開催	盆踊り&花火大会の開催	盆踊り&花火大会の開催		盆踊り&花火大会の開催
事業費	2,741,000	2,750,000	2,750,000	8,241,000	2,750,000
市町支出金 (ソフト事業分)	810,000	820,000	820,000	2,450,000	820,000
うち県交付金	405,000	410,000	410,000	1,225,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	1,931,000	1,930,000	1,930,000	5,791,000	1,930,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	市民協働推進課(自治振興交流グループ)
担当者名	川俣貴史
電話	0285-32-8887
連絡先 FAX	0285-32-8606
E-mail	shiminkyoudousuishin@city.shimotsuke.lg.jp